

平成26年12月相模原市教育委員会定例会

日 時 平成26年12月5日(金曜日)午後2時30分から午後3時24分まで

場 所 相模原市役所 教育委員会室

日 程

1. 開 会

2. 会議録署名委員の決定

3. 議 事

日程第 1 (議案第70号) 相模原市立小学校及び中学校の管理運営に関する規則の
一部を改正する規則について(学校教育部)

4. 閉 会

出席委員(5名)

委 員 長 永 井 博

委員長職務代理者 大 山 宜 秀

教 育 長 岡 本 実

委 員 田 中 美奈子

委 員 福 田 須美子

説明のために出席した者

教 育 局 長 小野澤 敦 夫 教育環境部長 大 貫 守

学 校 教 育 部 長 土 肥 正 高 教育総務室長 杉 山 吏 一
担 当 課 長

総合学習センター 宮 坂 賀 則 学 校 教 育 課 長 西 山 俊 彦
担 当 課 長

学 校 教 育 課 長 江 戸 谷 智 章 学 校 教 育 課 事 久 保 高 志
担 当 課 長 指 導 主 事

学 校 教 育 課 事 黒 岩 由 貴 子 学 校 教 育 課 事 佐 藤 由 起
指 導 主 事 指 導 主 事

学 校 教 育 課 事 川 邊 亮 子 学 校 教 育 課 事 森 美 香
指 導 主 事 指 導 主 事

学 校 教 育 課 事 劔 持 順 子 青 少 年 相 談 センター指導主事 白 田 良 雄
指 導 主 事

事務局職員出席者

教育総務室主査

萩生田 成 光

教育総務室主事

齋 藤 竜 太

開 会

永井委員長 ただいまから相模原市教育委員会 1 2 月定例会を開会いたします。

本日の出席委員は 5 名で、定足数に達しております。

本日の会議録署名委員に、福田委員と田中委員を指名いたします。

はじめにお諮りいたします。本日の会議を公開の会議とすることで、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

永井委員長 では、本日の会議は公開といたします。

傍聴人の方は、お入りいただいて結構です。

(傍聴人入場)

相模原市立小学校及び中学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則について
永井委員長 それでは、これより日程に入ります。

日程 1、議案第 7 0 号、相模原市立小学校及び中学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

土肥学校教育部長 議案第 7 0 号、相模原市立小学校及び中学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則についてご説明を申し上げます。

提案の理由についてでございますが、各学校における適切な教育課程編成のため、学校の休業日から開校記念日を除く改正その他所要の改正をいたしたく、相模原市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第 2 条第 1 項第 7 号の規定により、ご提案するものでございます。

具体的な内容につきましては、学校教育課長から説明をさせていただきます。

西山学校教育課長 はじめに、今回の改正を行う背景についてご説明いたします。

現行の学習指導要領が全面実施となった際に、授業時数が増加し、それを受けて各学校では、週当たりの授業時数の増加、学校行事の精選、短縮日課の削減など、実態に応じて時間割編成をし、特色ある教育課程が実施されているところでございます。しかし、昨年度のように台風・降雪等による臨時休業や、インフルエンザによる学級閉鎖等への対応措

置が重なると、標準授業時数の確保が難しくなる状況が生じております。そういった措置へも柔軟に対応し、かつ弾力的な教育課程を編成するためには、ゆとりある授業日数を確保することが重要であると考えております。

そこで、今年度、小・中学校それぞれの校長会、教頭会、教務主任の代表等を構成員とする教育課程課題検討委員会を設置いたしまして、3回の会議を実施いたしました。その中におきまして、開校記念日を授業日にして授業日数を増やすことで、教育課程にゆとりを生み出すことが望ましいという提言が得られました。それを受け、相模原市立小学校及び中学校の管理運営に関する規則の改正を行い、授業日数の確保を図りたいと考えております。

それでは、お手元の新旧対照表を使いまして、具体的な改正内容をご説明させていただきます。

恐れ入りますが、新旧対照表の2ページをご覧いただきたいと存じます。

今回の改正は、第3条第1項第3号に休業日として掲げられております開校記念日を削除することといたしまして、第4号以降を1号ずつ繰り上げるものでございます。あわせて、第4条以降につきましては、必要な条文の文言の修正、整理を行っております。

今後につきましては、本議案の決定をいただきまして、平成27年度から施行するために、次年度学校教育計画の作成に間に合うよう、早期に学校に提示することを考えております。あわせて、保護者、市民に理解が得られるよう、広報さがみはらや市のホームページ等を活用いたしまして、周知を図ってまいりたいと考えております。

以上、議案第70号についての説明を終わらせていただきます。よろしくご決定くださいますよう、お願い申し上げます。

永井委員長 説明が終わりました。これより質疑、ご意見等がございましたら、お願いいたします。

大山委員 今回の改正は、開校記念日を休業日から削るという趣旨だと思うのですが、開校記念日というのは、各学校でもっているいろいろ定められていると考えるところですが、開校記念日を授業日にするに当たって、こういうことをされた方がよいとか、何かそういう通知をあわせて行うのかどうか教えてください。

西山学校教育課長 今回の管理運営に関する規則の改正につきましては、本日の決定を受けまして、各学校長には通知を發出させていただこうと考えております。具体的には、1月に校長会がございまして、校長会で再度説明をするとともに、その通知の發出を考え

ております。また、今後、開校記念日が授業日となりますことから、その授業日となった開校記念日の日にちを有効に活用していただくためには、子どもたちへ開校記念日の意義であるとか、これまでの開校に対するお祝いをする気持ち等を表すような朝会であるとか、そのような取り組みをしていただければということは、校長会の方にはお話をさせていただきたいと思っております。

田中委員 今、西山課長からお話があったように、今回の改正の意義というところで、実質的には授業日数の確保というところで開校記念日のところを選ばれたのだと思うのですが、最近はお休みが全てハッピーマンデーみたいになってしまって、本来の休みの意味というものがなくなってきてしまっているように思います。大学などでは、もう毎月月曜日に休みが入ってしまうということで、大学生は祝日は休まず大学に行っているとも聞いています。そうしますと、国民の休日にもかかわらず、学生たちが休めないとか、その意義を考えられない、余裕もないというのは教育的にはいかなものかなと思いますので、ぜひ愛校心というところも含めて、今、課長に言っていただいたように、学校の誕生日というところで、みんなでお祝いするというような、何か意義のある日にしていただけたら、お休みではなくても、子どもたちにとってはいい日になるのではないかなと思いますので、そこを切に願いたいと思います。よろしく願いいたします。

福田委員 今、休業日のところについてのお話でしたが、そのほか文言が若干修正されたり等あるかと思うのですが、その辺のところの、文書的な規則性や統一的に変更等が生じたところについて、ちょっと教えていただければと思うのですが。

大貫教育環境部長 この規則は、昭和35年に制定されまして、かなり古いので、規定の仕方も古いものになっています。その後用語の意義とか使い方とか、そういうのが全て変わっていますので、規則改正する際、直せるものは随時直していくという方針がありますので、そこで今回改正がありましたので、直せるところを直したと感じております。

福田委員 特に大きな点はなかったように思いますが、表記方法で少し簡略化していくというか、そのような方向でしょうかね。

大貫教育環境部長 統一的な感じですね。

永井委員長 ほかに質疑、ご意見はございませんか。

(「なし」の声あり)

永井委員長 それでは、ありませんので、これより採決を行います。

議案第70号、相模原市立小学校及び中学校の管理運営に関する規則の一部を改正する

規則についてを原案どおり決することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

永井委員長 ご異議ございませんので、議案第70号は可決されました。

平成26年度全国学力・学習状況調査に係る結果公表について

永井委員長 続いて、事務局から報告事項があるようです。

報告事項1について、学校教育課からお願いをいたします。

西山学校教育課長 それでは、平成26年度全国学力・学習状況調査の分析結果と、その公表について説明をさせていただきます。

今年度の公表につきましては、5月の教育委員会で提案させていただきました平成26年度調査の公表のあり方をもとに、昨年度よりもさらにわかりやすくお伝えできるよう、児童生徒質問紙では、数値やグラフを用いる等の工夫をいたしました。

分析につきましては、昨年度同様、校長会の代表の先生方にお集まりいただきまして、分析検討委員会にてご意見をいただきながら進めてまいりました。さらに今年度からは、総合学習センターと青少年相談センターも加わりまして、より多角的に教育委員会としての取り組みを検討してまいった次第でございます。

また、いち早く学校における児童生徒への教育指導への充実や学習状況の改善を図るために、結果概要を11月6日にeネットSAGAMIにて教職員に配信はしているところでございます。今後、今回ご提示させていただく分析結果を各校に資料提供するとともに、本市教育委員会ホームページに掲載する予定でございます。

それでは、具体的に、お手元の平成26年度「全国学力・学習状況調査」相模原市分析結果についてをご覧いただきましてご説明申し上げます。

各教科につきましては、担当からご報告をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

森学校教育課指導主事 それでは、はじめに、小学校・国語の分析結果について報告いたします。

2枚めくっていただきまして、小学校・国語の1ページをご覧ください。

1、結果の概要についてでございます。本市の小学校国語の全体的な結果は、全国とほぼ同様な状況でございます。国語Aについては、漢字の読み書きにおいて正答率の高い設問はあるものの、故事成語の意味や使い方については、正答率が特に低い状況でございます。

す。国語Bについては、文章をもとに質問や意見、わかったことや疑問、自分の考えなどを整理し、述べたり書いたりすることについては、特に正答率が低く、無解答率は高い傾向でございます。

2、領域結果をご覧ください。

A問題の重点課題を伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項から、B問題の重点課題を書くことから取り上げました。

2ページをご覧ください。

児童質問紙の結果からも、自分の考えを書くときに、考えの理由がわかるように気をつけて書いていると答えた児童は、平成25年度に比べて増えてはいるものの、全国と比べるとやや低くなっております。

3ページから6ページまでにつきましては、先ほど説明した重点課題のA、Bについて、実際の問題を掲載し、課題改善に向けた具体的な指導方法を記載しております。

7ページをご覧ください。

領域ごとに充実したい指導内容を記載しております。例えば、2つ目の書くことでは、複数の文章を比べて読み、共通点や相違点を明らかにすること、自分の考えを明確にして書くことなどの指導、4つ目の伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項では、日常生活の出来事や様子を故事成語などを用いて表すことの指導を行っていくことが重要であると考えております。

以上でございます。

川邊学校教育課指導主事 続いて、小学校・算数の分析結果についてご報告いたします。

小学校・算数の1ページの結果の概要をご覧ください。

本市の小学校算数の全体的な結果は、全国とほぼ同様な状況でございます。算数Aについては、数と計算の領域は平均正答率が高いものがありますが、式の操作が必要な計算、割合に関する問題は正答率が低い状況でございます。また、単体量当たりの大きさ、体積の測定、円周、図形の約束や性質など、量と測定、図形の領域で正答率が低くなっております。算数Bについては、決まりをもとにして考えたり、根拠を明らかにして自分の考えを記述したりする問題で特に正答率が低く、無回答率は高い状況でございます。

2の領域結果をご覧ください。

A問題の重点課題を図形の領域から、B問題の重点課題を量と測定の領域から取り上げました。

2ページをご覧ください。

児童質問紙の結果からは、今回の算数の問題について、言葉や数、式を使ってわけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたかという問いに対して、最後まで努力したと答えた児童の割合は、全国と比べると低い状況ですが、平成25年度の市の結果と比較すると7ポイント増えております。また、公式や決まりについて、わけを理解するようにしていると答えた児童の割合は、全国と比べ低いという結果が出ております。

3ページから8ページまでにつきましては、先ほど説明した重点課題のA、Bについて、実際の問題を掲載し、具体的な指導法を記載いたしました。

9ページをご覧ください。

小学校「算数」について充実したい指導内容を記載しております。具体的な指導として、本市でまず第一に重視したいことは、1つ目に掲げました児童の学習状況を見ながら、適度の繰り返し練習の機会を設け、当該学年以降の学年においても、必要に応じて繰り返し指導し、基礎的・基本的な知識技能の習熟や維持を図ることでございます。さらに3つ目に上げましたように、問題の意味を理解し、自分の考えを表現できるよう、言葉だけではなく、図や表などを使って整理しながら考え方をまとめ、記述するようにすることも重要であると考えております。

以上でございます。

黒岩学校教育課指導主事 続いて、中学校・国語の分析結果についてご報告いたします。

中学校・国語、1ページの1、結果の概要をご覧ください。

本市の中学校国語の全体的な結果は、全国とほぼ同様な状況でございます。国語Aについては、話す・聞く、読む、書くことについての正答率は、全国とほぼ同様ですが、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項について、一部低い状況のものがございます。国語Bについては、全てにおいて全国とほぼ同様でございます。

2の領域結果をご覧ください。

A問題の重点課題を伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項から、B問題の重点課題を書くことから取り上げました。

2ページをご覧ください。

生徒質問紙では、考えを説明したり書いたりすることは難しいと答えた生徒の割合は低く、全国よりもよい状況でした。国語の授業で目的に応じて資料を読んで、自分の考えを

話したり書いたりしていると答えた生徒の割合は低い状況となっております。

3ページから7ページまでにつきましては、先ほど説明した重点課題のA、Bについて実際の問題を掲載し、課題改善に向けた具体的な指導について記載いたしました。

8ページをご覧ください。

領域ごとに充実したい指導内容を記載しております。例えば、2つ目の書くことでは、目的や相手に応じて、伝えたいことを明確にしてわかりやすく書く指導、また、4つ目の伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項では、具体的な言語活動の中で漢字の定着を図る指導や、ことわざや慣用句など多様な語句を使い慣れるような指導の充実が求められると分析いたしました。

以上でございます。

久保学校教育課指導主事 続いて、中学校・数学の分析結果についてご報告いたします。

中学校・数学の1ページの1、結果の概要をご覧ください。

本市の中学校数学の全体的な結果は、全国とほぼ同様な状況でございます。数学Aについては、数と式の領域は概ね身につけていると言えますが、関数の意味や理解、反比例のグラフなど、関数の領域に関する問題については正答率が低い状況でございます。数学Bについては、与えられた情報や特徴などを的確に捉え、数学的に説明する問いについて正答率が低い状況でございます。

2、領域結果をご覧ください。

A問題の重点課題を図形の領域から、B問題の重点課題を資料の活用の領域から取り上げました。

2ページをご覧ください。

生徒質問紙の結果からは、数学の授業で問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いていると答えた生徒は、全国と比べやや低い状況でございました。また、次の解答を言葉や数、式を使って説明する問題に、最後まで解答を書こうと努力したと答えた生徒も、全国と比べやや低く、全く解答しなかったと答えた生徒は、全国と比べやや高いという結果でございます。

次の3ページから8ページまでにつきましては、先ほど説明した重点課題A、Bについて、実際の問題を掲載し、課題改善に向けた具体的な指導方法を記載いたしました。

最後に、9ページをご覧ください。

中学校「数学」について充実したい指導内容を記載しております。下に示した具体的な

指導として、特に5つ目の身につけた知識や技能を活用する場面を設定すること、6つ目の宿題などの課題を効果的に実施し、家庭学習の習慣化を図るとともに、補足的・発展的な指導をより一層充実することの指導を行っていくことが重要であると考えております。

以上でございます。

劔持学校教育課指導主事 続いて、生活習慣や学習環境などに関する児童生徒への質問紙調査の結果についてご報告いたします。

質問紙の74項目のうち、教科に関する内容を除いた38項目中、相模原市の児童生徒に特徴的な内容や課題である内容、また、ほかの項目に影響が大きいと考えられる15項目の結果について掲載しております。

質問紙調査の1ページ、結果の概要をご覧ください。

本市の児童生徒の自尊意識や規範意識、基本的な生活習慣についても、全国と比べてやや低い結果となっています。また、本市の児童生徒の特筆すべき傾向として、携帯電話やスマートフォンの所持率が、全国と比べて高く、使用時間も長い状況です。質問紙から読み取れる児童生徒の生活習慣と学力には、全国と同様、本市においても相関的な関係が見られます。

まず、自尊意識についてございますが、全国と比べると、自分にはよいところがあると思うと答える児童生徒が少ない状況にあります。

2ページをご覧ください。

生活習慣について、朝食を毎日食べている児童生徒は約8割です。就寝時刻については、一定の時間に眠ることができている児童生徒は、全国と比べるとやや低い状況にあります。

3ページ目をご覧ください。

規範意識として、学校の決まりや規則、友達との約束を守っているかどうかについて、当てはまると答えた児童生徒は、全国と比べると少ない状況にあります。ただし、特徴として、どちらかといえば当てはまると答える児童生徒は多いという状況にあり、規則や決まりを守ることに、肯定的に受け止めることはできているという結果でございます。

4ページ目をご覧ください。

家庭学習については、1つ目のグラフで示していますように、平日学校の授業以外に3時間以上4時間未満と、2時間以上3時間未満の学習をしている児童生徒が多い状況にあります。一方、30分未満や全くしていない児童生徒も多い状況にあり、二極化しております。また、相模原市の特徴として、2つ目の学習塾で勉強していますかの問いのグラフ

の左側の数値ですが、学習塾に通っていないと答えた児童生徒を示しています。全国と比べて少ないことから、学習塾に通っている児童生徒が多いことがわかります。

5 ページ目をご覧ください。

1 つ目のグラフは、平日にテレビやビデオなどを視聴する時間、2 つ目は、テレビゲームをする時間について示しています。いずれも4 時間以上と、3 時間以上4 時間未満していると答えた児童生徒が多い状況にあります。3 つ目のグラフは、平日に携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間について示しています。全国と比べると、特に4 時間以上と答えた生徒が多い状況にあります。ただし、この点については、このグラフの右側の数値は携帯電話やスマートフォンを持っていないと答えた児童生徒を示しています。全国と比べて少ないことから、携帯電話やスマートフォンを持っている児童生徒が多い状況にあることがわかり、このことも影響していると考えられます。

6 ページ目をご覧ください。

地域、社会への関心について、ニュースをよく見ていると答えた児童生徒が、全国と比べると多い状況にあります。一方、地域の行事への参加については、児童生徒ともに少ない状況にあります。

以上でございます。

佐藤学校教育課指導主事 続きまして、課題の改善に向けた教育委員会の取組についてご報告いたします。

取組1 のページをご覧ください。

学校教育課では、学校訪問や校内研究並びに研修において、授業改善の重点として次の2 点を示し、各学校の授業の改善が図れるよう支援いたします。

1 点目は、「見通す・振り返る」学習活動の重視です。児童生徒自身がその授業において「何を・どのように学ぶのか」を理解し、結果として授業で「何を・どのように学んだのか」を実感できるような授業を展開できるようにしていきます。

2 点目は、言語活動の質の充実です。比較する、分類する、関係づける等の問題解決の手法を身につけて、児童生徒が自分の考えを深めたり、広げたりすることができるような言語活動を授業の中に計画的に位置付けられるようにします。

宮坂総合学習センター担当課長 総合学習センターでは、確かな学力を向上させる教職員の実践力を高めるため、次の2 点に重点を置いて取り組みます。

1 点目は、教職員研修の充実です。教科等の専門的知識や技術についての研修講座を充

実させ、教職員の実践的な学びの充実を図ります。

2点目は、研修・研究成果の還元のための工夫をすることです。研修や研究の成果は、市内に広げ、多くの教師に還元し、校内で還元することについても、一層図られるように働きかけてまいります。

白田青少年相談センター指導主事 青少年相談センターでは、児童生徒及び保護者、教職員等に対して、相談者の状況の改善をもたらすよう、以下の2点について援助・助言等を行い、課題の解決に努めます。

1点目は、相談活動の充実です。児童生徒のよりよい学校生活に向けて、相談活動の充実を図ります。また、子ども理解や教育相談のスキルを高めるための研修を実施します。

2点目は、相談指導教室の活動の充実です。通室児童生徒の集団適応力や基礎学力等の補充等のため、相談指導教室と学校との連携の充実を図ります。

以上で報告を終わります。

永井委員長 説明が終わりました。質疑等がございましたら、お願いしたいと思います。

大山委員 生活習慣の方に関して、児童生徒とも、家庭での学習時間というのが、全国に比べて少ない。要するに、おうちで宿題をしているか、あるいは学校の授業以外に1日当たりどのくらい勉強しますかという質問に対して、相模原は、家庭での学習というのが少ないような印象を持ちましたが、何かそれに対して、どんな工夫をしていったらよろしいのか、お聞かせいただきたいと思います。

佐藤学校教育課指導主事 今ご指摘いただきましたとおり、やはりちょっと家庭学習の時間が短いというところが見てとれるところがございます。私たちも、計画訪問等学校を訪問する際に、各学校のこのようなデータの方を見て、いろいろ指導・助言といったことをさせていただいております。その中で、やはりこういったことを定着させるためには、家庭学習の時間を確保することも必要ではないかということで、各学校ごとにそういった対応をとらせていただいているところでございます。

大山委員 もう1つ、よろしいですか。ちょうど8月ごろですかね、この結果の速報値が出たところで、教育関係の新聞だとか、全国紙にも載ったと思うのですが、スマホと学力の低下との関連性というようなことがかなり活字をにぎわせたと思うのですね。多分、今回の結果に基づいて、そういった報道がなされたと思うのですが、当時は関関があったというようなことで出ていたので、私はそれがどんな内容なのかと思って、関心を持っていたのですが、今回のこの結果を見ますと、必ずしもそういうことではなさそうな印象を私

は持っているのですが、いかがでございましょう。

佐藤学校教育課指導主事 実は、クロス集計というものがございまして、携帯ですとかテレビ、ビデオ、DVDを視聴している時間と、平均正答率とのクロス集計がございまして、そちらの方を見ていきますと、やはり相関関係があるということが、全国と同様、相模原市の方でも見られるところがございます。

大山委員 今回の中には出ていないけれどもということですね。

佐藤学校教育課指導主事 はい、そうですね。

大山委員 実際にクロス集計では、そういった結果があるということですね。

佐藤学校教育課指導主事 はい、そうです。

田中委員 分析、いろいろありがとうございます。朝食について、9割方の子が食べているとか、どちらかといえばしているも入れると、ほとんどの子が食べていると思うのですが、けれども、でも、全く食べていないという子が0.7%とか2.5%いるとか、ちょっとそこがすごく残念な結果だったと思います。先生方も、その辺はきちんと見ていただいて、これからの指導に生かしていただけてというところだと思っておりますが、本当に大人がまず手本を示そうと3ページ目にありますが、家庭での生活習慣というのが、やっぱり一番の根底になっているのではないかなとすごく感じました。それによって、やっぱり大人がその時間の使い方ですとか、日ごろからのそういう習慣の積み重ねだと思っておりますので、本当にこれは家庭問題というか、全体で見直していかなくてはいけないし、親が気づかないといけないのではないかなと思います。

今後、この資料というの是一般の方も見ることはできるわけですが、実際には見ようとしなければ、もしかしたら見れないのかなとも思います。学校を通してでないと、この資料というのなかなか保護者の手元に行かないと思うのですが、保護者と考える時間を設けられるような、何か機会をいただけたらなと思いますし、児童生徒だけの問題ではないなとも思いました。ぜひ、これはもうちょっと子どもが小さいご家庭にも、この結果がどうこうではなくて、やっぱりこういうことが結果としてよくないということ、また、ご自身のお子さんにどういうお子さんになっていただきたいかを考えていただけるような機会をつくっていただけるといいのかなとも思いました。ここの段階で、ではやりましょうというのはすごく難しいことだと思っておりますし、本当に先生方にはご迷惑をいっぱいかけるのではないかなとも思っておりますし、私は保護者の一人として、大変反省すべき部分があるなと思っておりますので、気づいたところからでも何か動けるような手だてを示していただ

たら、すごくありがたいなと思います。

福田委員 まず、国語の調査の方で、小学校の方については、小学校の国語の2ページのところにありますように、考えの理由がわかるように書いていますかということについて多少伸びているようなことが出ているというところは、とてもいいかなと思うのですが、中学校との比較はできますかね。中学校の方の結果については、ちょっとわからないのですが、去年から、やっぱり書いていくということが非常に課題であったということが事実あったかと思います。そういう中で、実際に学習指導要領等にも表れているのと、実際やっぱり書くということが日本の国語、言葉の学習の中で全体的に、非常に力がついていないということがあると思います。大学に入ったときに、一番やっぱり書くというところに物すごく大きな課題とか問題があるので、レポートが書けないとか、コピーアンドペーストをすることで、もうそのままになってしまっているというようなことが、1つ大きな文化的な課題として出ているかと思うのです。本市では、そういうことに対して、総合学習センターでの教員の研修というような、実践的なところで、実際にどのような取り組みが、去年から今年にかけて、何かそういった言語活動の質的な充実に関して、手だてが講じられているのでしょうか。

宮坂総合学習センター担当課長 ご指摘のことについて、総合学習センターでも、この書くことということにつきまして、いろいろ研究や研修を重ねております。特に今年度から、2年間の予定で、小中学校の4人の先生方が研究員研究として、書くことについての具体的な手だてとか方法につきまして、研究を行っております。今年1年目ですので、今ようやくテーマとか細かい部分、課題とかが見えてきましたので、今後また、あと1年間かけまして、子どもたちの課題がある書くことについての研究を進めながら、また多くの先生に周知、還元できればと考えております。

福田委員 ぜひ充実を図っていただきたいのと、あとやっぱり自尊心が低いといったところでは、自分の考え方を述べて評価されるというような機会が少ないということもあると思うのですね。ですから、そういうことを話すということも大事なだけでなく、それだけにとどまらず、やっぱり書くということの中で、しっかりとした確実な言葉の力をつけさせると、意見も一層しっかり言えるようになるし、そういうことが認められることによって自信を持っていくということもありますので、やっぱり言葉というものが本当に学力の根底にあるものだと思いますので、ぜひ今後の向上ということについて、検討していただきたいと思います。

田中委員 その学力は、向上するにこしたことはないと思います。そのために、いろいろな手だてがあると思うのですが、まずは子どもたちが、言語活動にしてもそうですけれども、発するとか学ぶとか、そういうことが楽しいと思えることが一番大事なのではないかなと思うのです。それが結果として、こういう数字に出てくるのではないかなと思います。家庭のこともそうなのですけれども、まずは自分たちが、生きているって楽しいではちょっと重いかもしれないのですけれども、とにかく毎日が楽しい、友達といるのが楽しい、家族といるのが楽しい、そういうところから学ぶことが楽しい、だからもっとこういうことがしたいというような意欲を育てることも大事、そのための手だてというか、学校での授業とか、そういうことになってくると思うので、学力だけではなくて、そこに至るまでの何か手だてというもので、ぜひ子どもたちが希望を持って学習に臨めるような環境づくりを、学校だけでなく家庭とともにやっていただけたらなと思います。

永井委員長 最後に、教育委員会のまとめ、取り組みがございまして、3項目にわたって、各学校の授業改善の推進、それから教職員の実践力を高める、それから子どもたちへサポートしますという趣旨だと思うのですが、それまでの資料の数値的なことは市内の学校の平均値だと思います。各学校は、上だったり下だったりという言い方が適切かどうかわかりませんが、それぞれ学校の特徴があるのだと思います。その特徴をよくつかんで、やはり学校としてどうするのかというのを、私は、授業改善に目が行きがちですが、やっぱり子どもたちに寄り添うというようなことも、とても大事なのではないかと思います。

実際に子どもたちへの目が届くのは学校ですので、その辺をぜひ教育委員会として働きかけをしていければと思っています。

テストは成績がいい方がいいことになっているので、数値的にいいのは、もちろんいいことなのですが、やっぱり子どもたちをよく見て、スマートフォン、携帯をどうして相模原の子が多く持っているのとか、時間が長いのかということまで、やっぱり触れざるを得ないのではないかと思っています。ですから、何をどう言えというのは私は思いつきませんが、各学校で子どもたちをより近いところで見ているはずですから、各学校の、それぞれのいい指導を期待しております。

それでは、この件はよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

永井委員長 それでは、次に、教育委員会の主なイベント等について、お手元にあります広報カレンダーに12月から1月はじめまでの予定がまとめてあります。ご覧いただければ

ばと思います。

この件について、何か説明等がございましたら、お願いします。

土肥学校教育部長 このカレンダーのちょうど2枚目、1月1日のところに記載のございます教員志望者対象の小・中学校見学会参加者募集につきまして、若干補足で説明をさせていただきます。その部分について、ご覧いただきたいと存じます。

ここで1月1日から参加者を募集いたします学校見学会についてでございますけれども、来年度、平成27年度実施の本市教員採用試験の受験予定者を対象としておるものでございます。定員は、記載しておりますように小学校コース、中学校コースそれぞれ申し込み順で各40名となっております。目的は、本市の受験を考えている方々に、実際の学校の様子でありますとか教育施設などを実際に見ていただくこと、また、現場の先生と実際に懇談をしていただいて、さがみはら教育の魅力を肌で感じていただくこととしております。

具体的な内容といたしましては、実際の授業参観、それから給食の体験、学校の先生との懇談会、それから若あゆと博物館の見学等を予定しております。

小学校の部は、実際には2月3日火曜日に小山小学校を見学させていただく予定となっております。また、中学校の部は、2月5日木曜日に相原中学校を見学させていただく予定となっております。

受験者が少しでも不安な気持ちを取り除いて、本市の教員採用試験を受けていただければと考えておるところでございます。

なお、1月1日号の広報さがみはらに、この内容を掲載いたしまして、申し込み期間は1月1日から1月15日までの2週間とさせていただきます。当日は、朝、橋本駅に集合して、貸し切りバスで若あゆ、学校、博物館と回り、夕方、淵野辺駅で解散、そういったスケジュールで進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

小野澤教育局長 本日、生涯学習部長が欠席のため、私の方から生涯学習関係のイベントにつきましてご説明させていただきます。1月1日に、39回目になります、さがみはら元旦マラソンと、あわせて寒中水泳大会がございますので、機会があればぜひそちらの方に足をお運びいただければと思います。

また、1月6日になります。相模大野にございますグリーンホール並びに相模大野図書館、それから南メジカルセンター等がある複合施設の方が、平成2年1月に開館してから、グリーンホールが1月8日に、図書館等は1月9日に、ちょうど25周年になります。そ

うした関係で、グリーンホール並びに図書館の方でそういった、これから25周年に向けたいろいろな行事を行っていきますので、また足をお運びいただければと思います。相模大野図書館では、相模大野の町の変遷も含めた紹介や、25年間のベストセラーの図書などの展示等を行います。またそれ以外にも、1月から2月にかけて、いろいろな行事を予定しておりますので、ご参照いただければと思います。

永井委員長 質問等はございませんでしょうか。

先ほどの教員志望者への件は、広報さがみはらに掲載するということですが、例えば大学生が知るには、広報さがみはらが唯一の方法なのでしょうか。

土肥学校教育部長 この件については、広報さがみはら以外に、教職員課が大学訪問等による広報を今進めております。相模原の教員募集ということで説明会を開いたり、その折にチラシの配布等を今後させていただく予定になっております。既に、もう訪問が終わっている学校もありますが、そうした学校にはポスター掲示等を依頼する動きを今とっておるところでございます。加えまして、教職員課の教員採用募集のホームページの方にも、この募集を掲載する中で、広く来年度、相模原の教員採用試験を希望される方々に、この情報が伝わるように取り組んでまいりたいと考えておるところでございます。

永井委員長 もう1点、先ほど、来年度受験を希望する方が対象との説明がありましたが、そうしますと一般的には現在の大学3年生になると思うのですが、2年生で希望する方については、とりあえず優先順位は低いという理解をしておいた方がいいのでしょうか。

土肥学校教育部長 一応、この中で申し込み順という形にはなっております。2年生の方が応募されてきたときに、どのように対応させていただくかについては、今、手元に資料がございません。ただ、基本的には、来年度受験される方を対象に募集していく形になっておりますので、できるだけその方たちを優先にしていまいりたいと考えております。2年生の方は、次のチャンスがまたありますので。

永井委員長 わかりました。

広報カレンダーの件については、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

永井委員長 それでは、最後に、次回の会議予定日ですが、1月9日金曜日、午後2時30分から教育委員会室で開催する予定でよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

永井委員長 それでは、次回の会議は1月9日金曜日、午後2時30分の開催予定といた

します。

以上、本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして、定例会を閉会といたします。

閉 会

午後 3 時 2 4 分 閉会